

第13回清溪セミナーレポート

講座1. 「農山村自治体の挑戦」

大江正章氏（ジャーナリスト、コモンズ出版代表）

四方八洲男氏（京都府綾部市市長）・水源の里作りで限界集落の存続再生を目指す
上治堂司氏（高知県馬路村村長）・・・ごっくん馬路村等で地域ブランド化を行う

- * コストと効果の関係をどう構築するのか
- * トップランナーでいることの意味とは

まず、行政として視点に置いておかねばならないことは、コストと効果、つまり費用対効果。何が必要なのかといったことの検証を常に見直していくことの必要性。

また、先進地の取組について模倣的に取り込んだ場合は、多くの場合失敗している。それは成功した結果のみを見ているからで、トップランナーとして取り組んだからこそ経験した失敗を見ていないから。失敗の中にこそ良策がある。

しかし、2番手、3番手となると「失敗」が許されないといった意識があるため、本当に失敗してしまうことが多い。

- * 地域活性化のヒント・・・この時代に生きていることの意味は

よく「地方の時代」という言葉を聞くが、本当に地方は光っているのだろうか。地域ブランドといった場合には、地域特産品を思い浮かべる方が多いと思うが、光らせねばならないものはブランドとしての物ではなく、その物を生み出した地域そのものである。地域をブランド化するのが最終目標。

また、国はすでに閉塞感の中にあり、出口の方向を見出せなくなっている。こういう時こそ、それぞれの地域で独自の政策を生み出していくチャンスである。何が自分の地域に必要なのか、見つめて、自ら考えて、自信を持って行動することが、これからの地方に求められている。

そうやって地方に力をつけることで国を変えていくヒントも生まれてくる。

失敗は終わりではない、新たな挑戦へのスタートである

講座2. 「地域医療の崩壊と再生」

邊見公雄氏（赤穂市民病院院長）・・・地域医療の崩壊と再生、ピンチをチャンスに

医療費の増大には医学の進歩が関係している。医療の進歩で平均年齢が上がってきている。平均年齢が上がるといのは高齢者が増えてくる。その結果医療を必要とする人口が増え、医療を必要とする内容も高度になってくる。（量と質の増大）

命を守るという高度な医療が進むほどに、反作用としての医療費増大が生まれるという

構造になってきている。

公立病院が持つマイナス要因として

- * 首長が変わると経営方針が変わる
- * 病院長、医師に転勤や退職があり、一貫した医療体制が取れない
- * 専門知識のない事務担当職員が配置され、どうかすると短期で交代する
- * 議会との関係で機動性がなく、迅速な対応が取れずに、対応に遅れが出る
- * 残業が多い、死亡退院が多い、救急車が来る、手術がある・・・などが嫌われる
- * 手間暇のかかる病院は職場として嫌われる傾向にある

医師不足の要因として

- * 地域偏在・・・大都市集中
- * 3K離れ、QOML重視・・・開業志向 (Quality of my Life)
- * 地方勤務のメリットがない・・・家族・子どもの教育、病症例が少ないなど

地方公立病院は、地域住民や医療現場の視点に立たねばならない。経営といった視点のみでは判断できないが、経営努力は必須条件である。

病院のラックアップ・・・今の地方病院に欠けているもの

- * 機能充実 * 医療現場・地域住民の視点 * 職員教育 * アウトソーシング等々
- * 平成20年度公立病院改革プランが示している病院改革（経営の効率化・再編ネットワーク化・経営形態の見直し）は財務省の考え方である・・・不必要とは言わないが・・・

赤穂市立病院の取組・・・市民による市民のための病院づくり

- * 五感にやさしい病院・・・視、聴、嗅、味、触
- * 病院らしくない病院（自宅のように）・・・人と人とのかわり⇒きめ細やかなサービス
- * 住民参加の病院。開かれた病院・・・ボランティアの自主的な参加
- * 次世代を育てる病院
- * 安全な医療を提供する病院・・・良好な診療、療養環境づくり

余談の中から

- * 日本のグローバルはアメリカンスタンダード＝アメリカは全てにおいて格差社会
- * 少子・高齢化とひとくくりにするが、高齢化は結果であり困ったことではないが、少子化は構造的な大問題である・・・子どもは票を持たないからか？
- * イギリスの社会福祉政策（ゆりかごから墓場まで）は、経済政策に終始したサッチャー時代に崩壊した。壊れたものは戻らない・・・日本も壊れてきている。
- * 国民の不見識にも要因がある・・・主権在民を放棄した・太平洋戦争末期の日本（竹やりで勝てると思った）によく似た構造になりつつある・・・考えない国民

笑顔は良性の感染症、伝染します

講座3. 「議会改革に取り組む」・・・パネルディスカッション

コーディネーター 穂坂邦夫氏（NPO 法人地方自立政策研究所代表）

報告者 橋場利勝氏（北海道栗山町議会議長）

根本良一氏（前福島県矢祭町町長）

萩野虔一氏（三重県議会議長）

- * 議会・議員が変わらないと自治体は変わらない
- * 議員は職業か・・・職業と議員とは
- * 地方自治体における二元性は国際的には稀である

議会基本条例はどこまで必要か

- * 設置する目的を明確にする
- * 地方の自立を図る・・・中央の政党の主張に惑わされないためにも、よく議論をする必要がある。議員間討議を深めると8～9割の問題は合意できる。残りの2割についてさらに議論を深めることが必要
- * 二元代表制としての議会の立場を明確にする・・・議員間討議は必要
- * 制定した時がスタートで、日夜改革を続けていなければならないが、何のために改革をするのかといった根幹を見失わないように・・・住民のための改革
- * 自立性・独創性は良いが、普遍性を失うと改革にはならない

議会の責任・あり方

- * 首長や住民との立場を明確にして、すべての議会・議論を公開する（会派内議論は？）
- * 政党に流されない
- * 議会の議決責任・・・決めたら終わりではない
- * 政治倫理規程・・・当然守るべき事項であって、殊更にいう問題ではない
- * 会期の見直し・・・会期の通年制は必要・・・専決を止めることができる
- * 議員間討議（自由討議）は議会の生命線である・・・議会が合議制であることを考えれば必然的にわかる問題である
- * 二元代表制を堅持する為には議会の意思統一が必要である。そのためにも議論を深めなければならないが、会期が長くないと議論が深まらない。
- * 政策提言できる能力をどうつけるか
- * 議会事務局職員の質の向上
- * 議員間討議を行うための、場と時間の設定（公開）

その他

- * 議会の出前講座や、休日・夜間議会の開催
- * 選挙にかかる公務員の時間外手当削減をどう考えるか・・・翌日開票で3千万円の削減
- * 定額給付金は公務員（特別公務員・準公務員）には不要・・・税金の二重取り

講座4. 「この国の行方」・・・福岡政行氏（白鷗大学教授）

講座5. 「志を高く掲げて」・・・野田一夫（多摩大学名誉学長・日本総合研究所理事長）

- * 秋葉原事件の時に、携帯電話動画が50件ほど放送局に持込まれた・・・ケガ人を助けようとしてもしない・・・「女は逃げろ、男は戦え」
- * 総選挙はいつか、政権交代はあるか、民公連立は起こりえるか、政界再編は・・・（これらの内容については、文字としては残せない内容）
- * 日本は壊れかかっている、まだ間に合うのか
- * 赤字覚悟でしなければならないこと・・・医療、教育、福祉、環境・・・これらの予算を削った愚かな首長と、それを容認した愚かな議会
- * 会場で隅っこに座るものは、人生でも隅っこに座る
- * 尊敬の念が湧かないものからは学べるものはない
- * 商取引による支出には恨みはないが、税金への支出には恨みがこもる
- * 成功と失敗は同次元の上にある、成功者の話のほとんどは失敗談である・・・成功の反対は「志をもたない」こと・・・失敗してもいいじゃないか
- * 志とは遠大な目標であり、念ずる気持が感動を伴う
- * 愚痴を言うな、対案を出せ